

令和元年度 第1回 旭区区政会議（全体会議） 会議録

1 開催日時

令和元年7月10日（水） 午後7時から午後8時50分

2 開催場所

旭区役所 3階第2・3会議室

3 出席者

（1）委員

木野 議長、弾 副議長、浅野 委員、石中 委員、井上 委員、伊吹 委員、
浦西 委員、岡 委員、鎌田 委員、亀井 委員、川井 委員、岸本 委員、
坂井 委員、阪本 委員、隅田 委員、中野 委員、横田 委員

（2）市会議員

福田議員

（3）旭区役所

花田 区長、土居 副区長、長谷村 企画総務課長、松原 企画調整担当課長、
柴川 まち魅力担当課長、前田市民協働課長、山本 防災安全担当課長、
片岡 窓口サービス課長、杉原 保健福祉課長、
小山 保健・子育て支援担当課長、出口 生活支援担当課長 他

4 次第

（1）開会

（2）令和元年度旭区区政会議運営・開催スケジュール（案）について

（3）平成30年度旭区運営方針の自己評価について

（4）区政運営についての委員からの直接の評価について

5 議事内容

○長谷村 企画総務課長

それでは、お時間となりましたので、ただ今より令和元年度第1回旭区区政会議（全体会議）を開会いたします。本日は、ご多忙の中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます旭区役所企画総務課長の長谷村です。どうぞよろしくお願いたします。

最初に、前回の区政会議でご紹介いたしました区政会議に関するアンケートにおいて、ご意見を頂いております。3つほどご紹介しますと、活発な意見交換がなされていない、また会議資料が多すぎる、分かりにくい、それから会議や要望に対するフィードバックが適切に

行われていないといったご意見を頂いているところでございます。これらのご意見につきましては、事務局ともども真摯に受け止めて、さらなる区政会議の運営に取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日使用します資料を確認させていただきます。事前にお送りしております次第、それから資料1、令和元年度旭区区政会議運営・開催スケジュール（案）、資料2、平成30年度旭区運営方針自己評価（概要版）、資料3、平成30年度旭区運営方針区政会議委員評価シート、また、本日机上配布資料といたしまして参考資料1、平成30年度第3回旭区区政会議（全体会議）における意見への対応方針、参考資料2、平成30年度学習会視察報告書（集約）、参考資料3、令和元年度区政会議委員学習会に向けてのアンケート、それとアンケートを送付していただくための封筒をお配りしております。

不足等ございましたら、挙手にてお知らせいただきたいのですが、いかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

本日は、会議原則公開でございますので、一般傍聴の方がお見えになっております。傍聴の皆さまにおかれましては、入り口でお示しいたしました傍聴要領に従っていただき、会議の運営にご協力いただきますよう、お願いいたします。

本日の委員の皆さまの発言内容については、発言者氏名も含めまして、区役所で会議資料とともに閲覧できるようさせていただくほか、区のホームページにおいても公表してまいります。このため、本日の会議は録音させていただいておりますので、ご了解願います。

なお、ご発言の際は、まず初めにお名前をおっしゃってからご発言をお願いいたします。

長くなりましたけれども、ただ今から開会に当たりまして、旭区長の花田よりごあいさつを申し上げます。

○花田 区長

皆さん、こんばんは、いつも大変お世話になっておりまして、ありがとうございます。また、本日は、この会議、急な日程変更ということで、大変ご迷惑をお掛けいたしました。またそういう中で、非常に出不にくいところをご参画いただきまして誠にありがとうございます。

先ほど司会からご紹介がありましたとおり、この間、この区政会議の運営につきましては、資料の作り方でありまして、席の配置、そして運営の順序とか、いろいろと工夫を重ねてきてはいるんですけども、まだまだなかなか難しいなというところで、道半ばではございますけれども、またご意見も頂きながら、より良い運営に努めてまいりまして、区政会議の委員の皆さまのご意見をしっかりと区政に反映されるようにというふうを考えてございます。

本日は、昨年度平成30年度の運営方針の自己評価というところを付けていただきました上で、ご議論をいただくこと。そして区政運営についての直接の評価というのを、これはシートにしてございますけれども、委員さま方から頂くということをメインの議題にしてお

ります。どうかお忙しい中、来ていただきまして、いろいろとご意見がおありということと
思っております。積極的なご発言を期待しつつ、区役所一丸となって、より良い区政運営に
努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日は市会議員の福田議員が、お忙しい中、来てくださいました。本当にありが
うございます。

○福田 議員

よろしくお願いいたします。

○花田 区長

後ほどコメント等も頂きたいと存じますが、よろしくお願いいたします。

それでは、本日、よろしくお願いいたします。

○長谷村 企画総務課長

ありがとうございました。

続きまして、議長であります木野委員からごあいさつを賜ります。

○木野 議長

議長を拝命しております木野でございます。本日はお集まりいただきまして、ありが
うございます。梅雨に入りまして、梅雨に入った途端に何か気候が不順になったような感
じで、大変な時ですけれども、G20 が終わったと思ったら選挙と、区役所の皆さま方も
大変だろうと思っておりますけれども、本日いろんな意見を頂いておりますし、活発な
意見交換がなされているという、このことは私、議長も責任あるのかなと思ってい
ますので、どんどん手を挙げていただいで、意見交換をしていただきたいと思ってい
ます。

そういうことでございますので、時間も限られておりますので、どうぞ、最後までよろ
しくよろしくお願いいたします。

○長谷村 企画総務課長

ありがとうございました。

それでは、本日の委員の皆さまの出欠のご報告をさせていただきます。本日ご欠席の委員
の方のお名前をお呼びいたします。天野委員、梅原委員、大城委員、奥田委員、尾登委員、
方委員、蒲委員、北村委員、城戸委員、久米委員、中西委員、疋田委員、藤井委員、三木委
員、水戸岡委員、宮川委員でございます。現在ご出席の委員は17名でございます。大阪
市区政会議の運営の基本となる事項に関する条例第7条第5項の規定に基づき、2分の1
以上の委員にご出席いただいでおり、本会議は成立してまことをご報告いたします。

本日も区役所の各担当の課長が、この後ろに控えております。どうぞよろしくお願いいたします

します。

それでは、議題に入ってまいりたいと思います。以後の進行は、木野議長にお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○木野 議長

それでは早速でございますが、次第に沿って進めさせていただきます。

議題の1、令和元年度旭区区政会議運営・開催スケジュール（案）について、これは事務局から説明をお願いいたします。

○松原 企画調整担当課長

失礼いたします。企画調整担当課長、松原と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。座って説明させていただきます。

A4横資料の1、令和元年度旭区区政会議運営・開催スケジュール（案）をご覧ください。区政会議の日程および、その下の参考、令和2年度運営方針および予算編成に係る作業スケジュールを併せてご覧いただきたいと思います。

本日が7月10日、全体会議、平成30年度運営方針自己評価および直接評価の議題となっております。なお、この下の旭区区政会議（全体会議）に関するアンケートにつきましては、次回の各部会でお配りいたしますので、ここから資料修正ということで、削除をお願いいたします。旭区区政会議（全体会議）に関するアンケートは、7月29日、7月30日の各部会であらためてお配りをいたします。

ご案内のとおり、7月29日、活力・安全部会、7月30日、子育て・やさしさ部会を開催の予定でございます。今日の全体会議では、昨年度の自己評価および直接評価でございますが、次回の部会につきましては、令和2年度の運営方針および予算編成に向けた意見聴取を行い、ここで頂いた意見を、できるだけ区政に反映させるということから、下段8月の事業の検討（新規・継続・廃止）と書いておりますが、令和2年度に向けた事業の参考としてお伺いをしたいと考えております。

その後、予算編成作業を経まして、11月、2段目になりますが、上旬、運営方針（素案）の公表および予算要求調書提出とありますが、それを受けまして、11月の中旬に全体会議、部会を開催し、平成30年度の運営方針の直接の評価、経過報告もいたしますが、令和元年度の運営方針の中間振り返りの報告および令和2年度運営方針素案および予算編成への反映状況の説明を差し上げたいと考えております。

その後、1月に各部会を開催し、令和2年度運営方針（案）および予算要求状況の説明を差し上げ、2月には各区運営方針（案）および予算（案）を公表いたしますので、2月、3月に区政会議（全体会議）を開き、運営方針（案）および予算（案）の説明を差し上げたいと考えております。

以上が開催スケジュールでございます。

一番下、区政会議委員改選の日程についてご説明申し上げます。

区政会議の委員につきましては、1期2年としております。令和元年9月をもちまして、2年の任期が終了することとなります。事務局としては、できるだけ続けていただきたいと考えておるところでございますが、大阪市の規定によりまして、最長2期4年が限度となっております。そのため、2期4年在任いただいた委員については、この9月で終了ということになります。非常に長い間、ありがとうございました。1期2年在任いただいた委員につきましては、役職の変更であるとか、ご自身の都合、やむを得ない場合を除きまして、事務局としてはぜひもう1期お願いしたいというふうに考えておる次第でございます。

スケジュールにつきましては、10月1日の新委員の委託に向けまして、団体推薦については7月の下旬より、公募委員につきましては、8月より公募を開始してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○木野 議長

ありがとうございました。事務局から説明がありましたけども、何かご質問ございますか。特に分からないこととかないですか。よろしいでしょうか。

では、次に移らせていただきます。議題の2です。平成30年度旭区運営方針の自己評価についてと議題の3、区政運営についての委員からの直接の評価については、併せて事務局よりご説明をお願いいたします。

○松原 企画調整担当課長

失礼します。企画調整担当の松原でございます。

引き続きご説明申し上げます。よろしくお願いたします。

資料の2、平成30年度旭区運営方針自己評価概要版をご覧ください。

資料につきましては、先ほどからもありますように、できるだけ分かりやすくということで、この間、変えてきたところがございますが、これからも分かりやすい資料および分かりやすい説明を心掛けてまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

平成30年度運営方針につきましては、旭区の目指すこととして、2ページ、下段になりますが、「安心して住み続けられるあたたかいまち旭区」の実現を目指しております。

そして、めくっていただきまして、3ページ、重点的に取り組む主な課題として、経営課題を1から4、経営課題の1が子育て・教育環境の充実、経営課題2、暮らしを守る福祉等の向上、経営課題3、コミュニティーの活性化とまちの魅力の創出、経営課題の4、地域防災力・地域防犯力の強化に向け、それぞれ旭区の将来ビジョンに対応しながら進めておるところでございます。

4ページ、区民アンケートの手法変更につきましてでございますが、次から説明を申し上げます資料の中に、「めざす状態を数値化」であるとか、「平成30年度の実績」、「平成29年

度の実績」の指標におきまして、区民アンケートによる数字を指標として採用しておりますけれども、アンケートの手法につきまして、平成 30 年度から変更し、対象を拡大しております。

具体的に申し上げますと、その下段になりますが、平成 29 年度につきましては、区民モニターのアンケートといたしまして、モニターとして募集・年度間の登録いただいた区内在住・在勤・在学で 18 歳以上の方 483 名につきましてのアンケートの結果ということで、手挙げの方について基本的にお願いをしていたというものでございますが、平成 30 年度につきましては、広くということで、区民アンケートといたしまして、住民基本台帳から無作為抽出によります 1,600 名の方にアンケートを送付させていただいたところでございます。そのため、より広い方々の意見を収集できたのではないかなというふうな格好ではありますけれども、若干、これまでとは一概に比べられないというふうなところがございますので、その点につきましては、また途中でご説明差し上げたいと思います。

続きまして、5 ページになります。ここから具体的な評価でございますが、経営課題の 1、子育て・教育環境の充実ということ、経営課題の中で戦略の 1-1、子育て支援の充実におきましては、安心して子どもを育てられ、地域全体で見守りが行われていると感じるまちづくりを目指しまして、支援、相談体制づくり、キッズネット、要保護児童対策の充実などを行ってまいりました。

下の 6 ページにいけますと、具体的な取り組みとしまして、相談支援の実施であるとか、プレママサロンを開催し、平成 30 年度の業績目標につきましては、相談件数 500 件以上を目指したところ、実績としまして 1,085 件ということで、かなりの多い件数を得て、達成率としては 217%という結果になっております。

同様に、②支援が必要な子ども・家庭へのサポートということで、講座やイベント、キッズネットの会議の開催、小中学校に発達障がいサポーターを配置、事業の満足度 70%以上を目指しましたところ、94.4%と達成しております。

また③で制度の周知・相談機能の充実につきましても、業績目標として相談やサポートが受けられるになっていると感じられる区民の割合につきまして 63.5%以上のところ、82.9%を達成させていただいたということで、上に戻りまして、戦略 1-1 のめざす状態を数値化でございますが、子育てに関する相談やサポートに満足してる割合（区民アンケート）で 32 年度までに 65%以上としておりましたところ、30 年度につきましては 82.9%ということで、すでに達成させていただいたという状況になっております。

続きまして、めくっていただきまして、7 ページになります。

戦略 1-2、子どもへの教育支援として、目指す状態として、基礎的な知識を習得し、学習習慣を定着させるという目指す状態を設定し、小学生へのおさらい教室、中学生へのベーシックサポート事業、それから旭塾、あさひ学び舎事業を実施してまいりました。

8 ページにありますように、具体的な取り組みとして、中学性のベーシックサポート事業につきまして、成果があったと感じる学校が 4 校中の 4 校ということになっております。ま

た小学校につきましても、おさらい教室、成果があったと感じる学校 10 校中 10 校ということで、100%。あさひ学び舎事業につきましても、参加した中学生の高等学校等への進学率 100%を目指しましたところ、100%達成ということになっております。こども食堂支援につきましても、運営面での支援、それから学習等支援員の派遣などを行い、学習できる環境が整い、学習・生活習慣がついたと感じる運営者 50%以上を目指したところ 57.1%というふうになっております。

上にいきまして、めざす状態を数値化のところでございますが、先ほども申し上げましたが、小学校において、基礎学力の向上・学習習慣の定着が進んだと感じる学校数は 10 校中 10 校を目指しておりましたところ、達成させていただいたということになります。

続きまして、9 ページ、10 ページの経営課題の 2、暮らしを守る福祉等の向上でございます。戦略 2-1、健康寿命を延ばす取り組みとして、目指す状態を、区民一人一人が健康の重要性を意識し、生活習慣病の改善および早期発見・早期治療を実践する区民の割合を増やすなどを設定しております。

具体的には、あさひ健康フェスタなどを実施しております。具体的取り組みの中で、健康フェスタの開催、がん検診受診、それから②高齢者が生き生きと暮らすために、「いきいき百歳体操」の拠点の新規立ち上げの支援、交流会の実施、認知症予防講演会の実施などを行っております。それぞれ業績目標については達成をして 128%、124%と達成をさせていただいたというところがございます、上にいきまして、9 ページのめざす状態を数値化のところ、健康意識の高まりを感じる区民の割合、区民アンケート 80%以上を目指したところ、73.1%ということで、31 年度までに、今年度中に 80%以上達成見込みということで順調に進んでいると考えております。

続きまして、11 ページ、12 ページの戦略 2-2、誰もが活躍できる場づくりのための取り組みで、目指す状態を、障がいをお持ちの方や高齢者の皆さまが居場所・持ち場をつくり、自分らしく安心して共に暮らせるまちを目指すということで、下段にいきます、12 ページ、①「あさひあったかバス」の補助事業の継続ということで、1 カ月当たりの利用者を 6,700 人以上を目指したところ 6,802 人と達成した。また福祉のための取り組みとして、福祉ビジョンの改正、それから総合的なネットワークの強化、障がい福祉事務所で生産された授産製品の物品販売の支援などを行いまして、満足度 70%以上を目指しましたところ 85.7%、これも目標を達成したというところがございます。

上にまいりまして、めざす状態を数値化でございますが、障がい者をサポートする仕組みが整っていると感じる区民の割合（区民アンケート）で 65%以上を目指しました。それから高齢者をサポートする仕組みが整っていると感じる区民の割合につきましても 65%以上を目指したところでございますが、測定結果につきましても 62%、61.7%としまして取り組み、やや低い、結果的には未達成となっております。

29 年度には、その実績からも下がっているということで、考えられることにつきましては、先ほどのご説明を差し上げましたアンケート手法の変更が、ここで影響しているのかな

というふうを考えているとでございます。

続きまして、13 ページ、14 ページ、経営課題の3、コミュニティーの活性化とまちの魅力の創出でございます。

戦略3-1、コミュニティー活性化の取り組みでございますが、具体的な戦略といたしまして、地域活動協議会の運営支援や、さまざまな各種関係団体と連携して取り組みを進めるとしまして、具体的には、下段の①番、活力ある地域社会づくり、地域活動協議会が行う事業への支援、それから組織運営の支援、活動・運営面に対するアドバイスの実施などを行い、全10地域、10の地域活動協議会が行う事業実施件数120件以上を目指したところ123件ということで、目標を達成させていただいた。

それから、②コミュニティーの活性化として、さまざまな事業の実施を行いました。コミュニティー活性化のため、各種催しを知っている区民の割合95%以上を目指したのですが、91.1%として、達成率ではやや届かなかったということで、アスタリスク、下にありますが、②については、これからも区広報紙・ホームページ等、例えばSNSとかも使いながら、効果的な広報に努めてまいりたいと考えております。

③の生涯学習推進事業につきましても、参加者アンケート80%以上を目指したところ、98.3%として目標を達成したとあります。

上にいきまして、めざす状態を数値化でございますが、地域が自律的に運営されていると感じる区民の割合につきましては51.3%でございます、32年度までに65%以上達成見込みに向けて順調かというふうと考えているとでございます。

続きまして、15 ページ、戦略3-2、まちの魅力創出や地域経済活性化施策の展開でございます。城北公園の活性化、商店街の活性化、区への定住促進などを目指すということで、下段の下の具体的な取り組みでございますが、①旭区の魅力の創出の発信として、ブランド、イタセンパラのPR、それからさまざま、音楽の祭日・旭ミュージックフェスタの実施、旭区検定などを実施しております、これは目標としましては、一般紙における旭区の魅力の発信を5件以上と設定しておりましたが、実績としては10件ということで、達成いたしました。

②番、城北公園フェアにつきましては、区外からの来場者の割合が60%以上でございましたので、目標としましては69.5%ということで達成いたしました。

③の商店街の魅力向上につきましては、商店街を魅力に感じる区民の割合としまして、75%以上を設定しておりましたが、68.2%ということで、やや足らなかったというところがございます。

下段、③につきましては、若手店主の横の連携を強化するための勉強会の開催や、区内店舗を利用した体験メニューの開発や観光サイト等も活用しながらインバウンド誘致に取り組み、商店街と連携して新たに空き店舗対策を行い、商店街の魅力向上を図りたいと考えております。

上にいきまして、めざす状態を数値化でございますが、地域のにぎわいや活性化が進んだ

と感じる区民の割合（区民アンケート）で 80%以上を目指している、こういうところでもございましたが、30 年度の達成状況につきましては 70.8%ということで、29 年度実績が 75.6%から下がってしまったということでもございます。進捗状況としては、ちょっと順調ではないのかなというふうに考えますが、アンケート手法の変更というのが、ここでもちょっと影響しているのかなと考えておるところでもございます。

続きまして、17 ページ、18 ページの経営課題の 4、地域防災力・地域防犯力の強化でございます。戦略 4-1、地域防災力の強化におきましては、目指す状態を、被害を最小限に食い止めることができる体制、それから防災意識の高いまちづくりを目指しております。

具体的な取り組みとしまして、①地域防災力の充実としまして、防災物資の整備や充実、それから避難に支援を要する方への支援、それから災害時避難ビルの指定など、民間事業者との連携、それから大型粉末消火器の配備を行っております。

業績目標として、防災物資等の整備状況に満足している区民の割合につきましては 40%以上を目指したところ、実績としまして 62.1%として達成をいたしました。

②番、地域防災意識の向上として、防災講座の実施や土曜授業の実施、防災公園の実施、広報啓発、それから自主防災組織の育成、地域防災リーダーの育成などを行ってきました。業績目標として、防災訓練にこの 3 年間で 1 回以上参加した区民の割合を、30%以上を目指しておりましたが、結果としまして 13.6%ということで、ちょっと低い達成率となっております。

この②につきましては、これからですけれども、地域の防災担当者と連携を密にして、区民の防災意識向上につながる取り組みを継続的に実施するとともに、その業績目標については、より中間アウトカムとしてふさわしい項目への変更を検討する必要があるなど考えているところでございます。

上にいきまして、めざす状態を数値化のところでもございますが、旭区の地域防災体制に満足している区民の割合を、平成 32 年度、来年度までに 70%以上を目指しておりましたが、今年度 54.9%として、昨年度 29 年度の実績 67.6%よりもやや下がったということで、順調ではないとしておりますが、ここでもアンケートの手法の変更というのが、ちょっと影響しているのかなと考えております。

続きまして、19 ページ、20 ページ、戦略 4-2、地域防犯力の強化でございます。目指す状態を、犯罪の防止、それから防犯カメラの設置や青色防犯パトロールで犯罪や交通事故のないまちを目指すということで、下段にいきまして、具体的な取り組み、①防犯対策の強化、青色防犯パトロールの実施、自転車盗難防止キャンペーン、ひったくり防止キャンペーン等の実施、防犯カメラの設置などを行いました。

業績目標として、防犯関係の取り組みが成果につながっていると感じている区民の割合は 75%以上に設定したところ、80.9%として目標達成いたしました。

②交通安全・自転車のマナーアップ等でもございますが、交通安全対策、それから柳通りの自転車レーン整備等々を行いまして、区による交通安全の取り組みの成果が上がっている

と思う区民の割合 71%以上を設定しましたところ、73.9%として達成をさせていただきました。

上にいきまして、めざす状態を数値化のところでございますが、黒の①区による防犯関係の取り組みが成果につながっていると思う区民の割合につきましては75%以上、それから、②区による交通安全の取り組みの成果が上がっていると思う区民の割合を71%以上と設定いたしましたところ、①については80.9%、それから②につきましては73.9%として達成済みということになります。

以上が、旭区運営方針自己評価の概要でございます。

併せまして、資料の3、A3の縦の資料になりますが、旭区運営方針、区政会議委員の評価シートのご説明を申し上げます。

平成30年度、旭区区政運営につきまして、戦略に対する評価のどれか1つに丸を付けていただきたい。それからそのように思われる理由というのをご記入いただきたいと思います。

1番目、各経営課題に帯する戦略は、総合的に見て、目指すべき将来像の実現に有効であったと思いますかのところでございますが、旭区運営方針の自己評価概要版の5ページから8ページのところ、経営課題1、子育て・教育環境の充実……、お分かりになりますでしょうか。一番上の経営課題の1、子育て・教育環境の充実につきましては、先ほど説明差し上げましたこのA4の資料の5ページ、6ページ、7ページ、8ページ、経営課題の1、戦略1-1のところに該当いたします。

目指すべき将来像につきましては、運営方針をそのまま転記しておりまして、その右の戦略1-1、子育て支援の充実というところが、先ほど説明差し上げました資料の5ページ、6ページに対応します。

この5ページ、6ページに子育て支援の充実、目指す状態について、この戦略を具体化するために、この具体的な取り組みというものが有効であるかどうか、この戦略が有効であるかということについて、1思う、2やや思う、3あまり思わない、4思わないというところのどれかに丸を入れていただきまして、そこに丸をした理由というのを、その下、上記評価を付けられた理由というところで、具体的に書いていただきたいということでございます。

なお、戦略1-2、子どもへの教育支援につきましては、次をめぐっていただきました7ページ、8ページのところに該当しておりまして、その戦略が果たして目指すべき将来像に向けて有効かどうかというところを、思う、やや思う、あまり思わない、思わない、どれかを選択していただき、その理由というのを書いていただきたいということで、それぞれ経営課題の2、暮らしを守る福祉等の向上については9から12ページ、経営課題の3、コミュニティーの活性化とまちの魅力の創出につきましては、12ページから16ページ、経営課題の4、地域防災力・地域防犯力の強化につきましては、17ページから20ページに対応しておりますので、ご覧いただきながら率直なご意見というのを書いていただきたいと考えております。

その次の下段の2番でございますが、上記のような旭区の取り組みは、区の目標の実現に有効であったかにつきまして、「安心して住み続けられるあたたかいまち旭区」の実現を目指すために、これらの取り組みというのは有効かどうかということにつきまして四択で選んでいただきたい。また、その選んだ理由というのを右側に書いていただきたいと考えております。

この評価審査につきましては、7月末を締め切りとしまして郵送もしくは持参ということで、先ほど申し上げました7月29日の活力・安全部会や子育て・やさしき部会の7月30日の部会に、またご持参いただければと考えております。

長くなりましたが、説明は以上でございます。

○木野 議長

ありがとうございました。ただいま議題2と3の説明をいただきましたけれども、まず資料3の区政会議委員の評価シートのお書き方につきましては、また後ほど書き方については、またご質問いただくとしまして、まず資料2、旭区運営方針に関わる自己評価について、こちらのほうを十分に議論していただいて、そして区政会議委員としての意見を頂くほうがいいかなと思いますので、資料2の旭区運営方針に係る自己評価、この辺についてご発言がある方は、ぜひ積極的にお願いいたします。ただ、多くの委員にご発言いただきますように簡潔に、それからまた団体からのご推薦をされておられる委員は、所属団体の視点からご意見をお願いしたいと思っております。

それではまず、資料2に係るご意見からお聞きします。

○隅田 委員

隅田です。2点、取りあえず2点ですけども、資料2の4ページの4番ですかね、この区民アンケートなんですけど、1,600名に送付して、どんだけ返ってきたかということと、そのアンケートの記載はいつされたんかというのをちょっとお聞きしたいのと、あと、ずっと今お話を伺ってたんですけど、達成率のところをずっとお話しありましたけど、その中で幾つか、下に注釈というのが入っていましたが、業績目標の立て方が不適切であったんじゃないかなという観点と、その取り組み自体として見直しとかが必要やったとか、評価すべきという観点と2つあって、そこを判断するに当たって、結局これ過去のこの評価をして、じゃあそれを今もう31年度令和元年度が始まっていますけど、これにどこまで生かせるのかとか、さらに今後来年度2年度に生かしていけるんかということ、次の11月にそれを考えていくんだとは思いますが、ちょっとこの30年度の資料だけ、なんか分かりづらいところがあって、今後31年度今年度のものとかも、過去の資料をもってきたらよかったんかもしれないですけど、ちょっと分かりづらいなと思いました。

○松原 企画調整担当課長

ありがとうございます。まず、区民アンケートでございますが、区民アンケートにつきましては2回行いまして、1回目が……。

○井上 委員
関連質問……。

○木野 議長
すみません、じゃあ関連質問ということで後からじゃあ、井上委員からお願いします。

○井上 委員
今と同じ、関連質問なんですけども、回収率と、できたら校區別に、どの地域何名とかいう校區別も分かれば教えていただきたい。それと男女別、年齢別、この辺もやっぱり見ないとよく分からないんです。

○木野 議長
では、石中委員。

○石中 委員
質問に従って、まず区民アンケートの話での関連質問なんですけど、例えば資料の18ページを見ていただくと、その具体的な取り組みがありますよね。地域防災力の充実のところ、具体的には、災害時の避難ビルの指定だとか民間事業者との災害時の連携や協定等というふうに書いてあって、目標があって、区民アンケートやと40%以上を目標にして実際にやったら62.1%というふうになってはいるんですが、私が知っている限り、これはたぶん前回も質問したと思うんですが、その避難ビルの指定だとか進んでるのかと、実際に取り組んでいますという話があって、前回は終わってはいるんですが、この指定は「さくら園」さんくらいがやっているのかなと。

結局、これから質問の中身ですが、実際に区民アンケートってどういうことを実際のアンケートの内容としてんのか、ちょっとよく分からないので、この62.1%って出た数字が妥当なのかどうか、今私たち、これを見ただけでは判断できないなと。できれば、区民アンケート自体、私たちも一緒に見て、いや、もっとこういう質問の仕方にしたほうがいいんじゃないのかとか、こういう意見を述べられるような場を設定していただきたいなというのが私の質問です。

○木野 議長
今、3人の方から頂きましたけど、全てアンケートに関する事で、回収率はどうやったのか、それから地区ごと、それから年齢構成、それから実際にアンケートそのものはどんな

ふうなんだということでございます。じゃあ、一括してお答えいただけますか。

○松原 企画調整担当課長

お答えします。まずは、区民アンケートの回収率でございますが、2回行いまして、1回目が778名から回答いただきました。49%になります。2回目につきましては816名の方にご回答いただきまして、51.3%となります。あと、校下別、男女別については、今ちょっとすみません、手元にないので、後ほどまたお調べします。

それから、区民アンケートの妥当性といいますか、設問の妥当性等でございますが、これもどう聞くかと、かなり聞き方にもいろいろあるかと思うんですけども、それにつきましては、ご要望、ご意見を頂いたのを、次回のアンケートで生かすというようなことで考えたいと思います。今はちょっとそれだけで。

○木野 議長

期間は。

○松原 企画調整担当課長

期間は、またちょっと調べます。

○木野 議長

ちょっとまだよく分からないところがありますけども、実際に区政会議の委員が評価しないといけませんのでね、その辺もちょっとできるだけ早めに調べていただいたほうがいいかなと思います。

○石中 委員 すみません。

○木野 議長

もう一度、はい。

○石中 委員

今の区民アンケートの中身についての話なんですけど、検討するっていうことは、例えばこの、私たちの活力・安全部会は7月29日にやるんですが、そのときまでにじゃあ次回のアンケートはこういうのを出しますよ。だから、中身を皆さんで検討しましょうよというように出すのか、いや、それも含めて今検討するしか言えないのかという、今はそういうふうに関心はありますが、僕らとしては、それは出したらええやんと思うんですが、実際はどうなんですかね。

○松原 企画調整担当課長

アンケートにつきましては、今回、今回といいますか、前年度に行いましたアンケートにつきましては、ご提供はできるかと思えます。今年度につきましてはこれからでございますので、設問設定も含めて今後の検討となりますので、ぜひ次の部会で、昨年度やらせてもらった点についてご意見いただいて検討という形になるかと思えます。

○石中 委員

その意味が……。

○木野

現在行われていることについては、次の部会にはお答えいただけると、石中委員が言われた、その時検討するって、どういうふうに検討するかということですよ。

○石中 委員

結局、前のやつは実績として、こういう内容のアンケートをしましたっていうのは、それはそれでいいよ、もうすでにやってしまったことなんで、そうしたらそれを踏まえて、今度こういう質問する予定ですっていうのは、分かっているんだって出してほしいし、この7月29日の時点で、まだアンケートの中が内容が決まってないんだって、ある程度平成30年度に行ったものを基本にして、こういうふうにするという意見があれば、じゃあ私たちもそれには、いや、もっとここをこういうふうにしようよとか、それはできるのかなというふうに思います。

○木野 議長

他に何か、この件につきまして。では、岡委員、どうぞ。

○岡 委員

太子橋の岡です。アンケートの件なんですが、1,600人っていうのは、どこから出た数字なのかなということを、最初にまず思ったのと、それから、目指す状況に達してないのは、アンケート手法の変更が影響している可能性があるっていうのは、どういうふうな影響があったの？っていうのが、ちょっと分からないところです。

○木野 議長

文言の話ですけど、どういうふうに解釈してるのかということでございます。アンケートが違うんだって仕方がないじゃないかということと終わるか。

○松原 企画調整担当課長

今回につきましては、意見は区民モニターの方ということで、かなり登録という行為から、かなり区政に、なんていいますかね、興味関心があられた方ということが前提になるかと思えます。その上でのアンケートの結果であったかと思いますが、今回は無作為抽出ということで、普段なかなか区政にコミットされていない方につきましても、併せて聞いたということから、より一般的区民の方っていいますか、意識を測定できたのではないかなというふうに考えておりますので、例えば区民の方、強い関心のある方のアンケート結果と、それに対して関心のない方も含めたアンケート結果につきましては、その数値に影響があったのではないかと考えているということが説明なんですけども、分かりにくいかもしれません。

○木野 議長
区長。

○花田 区長

補足説明で申し上げますと、実は今回、子育てに関する部分っていうのは、以前よりも、だから去年よりも高めに出ているんです。実際の取り組みの成果としての実績で、上がってるっていうところもあるんですけども、それ以上に高評価に出てる反面なんですけども、例えば戦略の2-2、11ページ、12ページのところをちょっとご覧いただけたらと思うんですけども、下の取り組みからいくと、目標よりも取り組み状況っていうのは上がってるんですね。上がってるにもかかわらず、その評価、アンケートの結果っていうのは下がってるっていうのがありまして、ここについては、やはりさっきちょっと課長から言いましたように、その対象がもともと一定、区政に関して関心を持ってらっしゃる方とそうじゃない方、さっきエリアがどうだとか、男女の比がどうだとか、年齢構成がどうだとかっていうところが出てくると思うんですけども、そういう中で、子育てだけは、なんかかなり数字が上がってるんですけども、それ以外は軒並み落ちてるっていうところがありまして、本来であれば、取り組みとしては着実に進んでるのに、そのアンケートの評価が落ちてるっていうところは、その手法が影響したんじゃないかなっていうようなことを、私どもとしてはそこも考えてるところです。

ただ、一概にそれだけではあり得ないとは思いますが、可能性はあるということで書いてございます。これは実はオープンにしてる資料にも、そういうふうにかかせていただいております。

○木野 議長

アンケートのことについては、それでよろしいですかね。今、隅田委員が言われたのは、年ごとにこれを評価して、次に生かしていくべきやということですね。いわゆるPDCAのような形で、そういうことを言っておられたわけですね。

○隅田 委員

そうですね。今日の資料の31年度の、ああ、ごめんなさい……、隅田です。31年度の計画というんですかね、がないのでちょっと、これが31年度にどう生かされたんかって、前の議論がもう頭になくなってて入ったということですね。

○花田 区長

そういう意味から言うとはですね、タイミングがちょっとたがい違いになってるところがあって、PDCAという点では順調に回してるんですけども、31年度を策定する際には、この数字っていうのは、まだ分かってない状況なのです。なので、中間評価をまた8月等にしていきますので、その際に例えば目標の数値として、今回非常に同じような目標値やのに、7割のもあれば8割のもあるっていうのは、前年度よりも実績よりも少しでも高い数値を目標にしましょうということになっているので、そんなことになってるんですけども、そういう見直しを行っていくタイミングが、今度8月ぐらいにございまして、それについてはまた、1月の時にご議論をいただくということになると思います。PDCAについては、ここは結構丁寧に回しております。

○木野 議長

ありがとうございます。では、アンケートのことはそういうことですが、個々の課題とか取り組みについて、何かご意見、ご質問とかございますでしょうか。

○花田 区長

ちょっと補足説明をよろしいですか。

○木野 議長

はい、どうぞ。

○花田 区長

先ほどお話の中で、達成できなかった※印のところについて、取り組みをより強化するというような書き方をしているところと、目標値を変えるっていうような書き方をしているところがあるなっていうようなちょっとご指摘を頂いたところなんですけれども、そこをちょっとご説明を申し上げますと、もっとこの取り組みを進めることで数値を上げることができるといものについては頑張りますっていうスタンスで書いてるんですが、例えば18ページでございまして、この①、②の取り組みっていうのがありまして、地域防災力の充実と地域防災意識の向上っていうところがありまして、この特に意識の向上のところ、低い数字が出ております。ただ、実際に取り組んでる内容っていうのは、防災講座を実施したり、学校と連携した土曜授業であったりとか、自主防災組織の育成とか研修とかって

うようなことを地道にやっていると、これについては、基本的には強化するっていうしかないんですけども、これを強化したところで、防災訓練に3年間で1回参加する人が、直接的に増えるかっていったら、これは難しいん違うかと、そういう話になりまして、もう少し日々の取り組みというか、各年度の地道な取り組みを着実に頑張ったら上がるっていう指標はないかっていうようなことがございましたので、よりふさわしい項目への変更を検討するという書き方になっております。

具体的な取り組みと業績目標、そして業績目標の積み上げが、本来はこの右上に書いております目指す姿の達成状況っていうことで、リンクしていくっていうストーリーにしてるつもりなんですけど、このストーリーがあまりうまくいってないものがあったというふうを考えているところでございます。

○木野 議長

他に何かご質問ありませんか。まだ時間は十分ありますので、意見交換をよろしくお願ひします。

○花田 区長

もっとこんな取り組みをやったほうがええんちゃうかとか、これはちょっと成果が上がらない、成果に反映しないので要らんのとちゃうかとか、そういう視点でもご覧いただいたらと思うんですけど。

○木野 議長

そうですね。

○阪本 委員

今の議論とは違う視点で2つのことを申し上げます。

○木野 議長

すみません、お名前は。

○阪本 委員

防犯協会の阪本です。本当にお世話になっております。

1つ目が、松原課長が、るる説明していただいた中に、14 ページの一番下、アスタリスクのところで、本日も私、ホームページを旭区、「あさひ」でたいたたら、例えば横浜市旭区、あるいは滋賀県長浜市の朝日町とかいっぱい出てくるわけですね。他の行政のホームページを見ながら、具体的な担当の方は存じ上げておりませんが、随時更新されてると思うんですけども、だいたいどれぐらいのサイクルで、もう一方的に発信するというところで、

ちょっとその辺りは逆に、デジタルのICTの時代ですので、逆に区民の皆さんから質問、あるいは意見等を、そういうご意見箱というかな、そういうものがあったらいいかなということ。

あまりちょっと更新のスピードがリアルタイムではないのかなと。これはちょっと厳しいことを言ってるかも分かりませんが、もう少しタイムリーな形で随時、専任の方がいらっしゃるかどうかわかりませんが、SNSあるいはICT、駆使していろんな情報を発信するというのが1つですね。

それから、区民の意見をくみ取る、そういうご意見箱というか、何か素朴な質問を含めまして、意見が発信できるような、受けていただけるような、そういうものがあったらいいかなというのがあります。それが質問で、どれぐらいで更新されてるんですか。

○松原 企画調整担当課長

ウェブサイトの更新につきましては、新着状況、内容にもよるんですけども、単純に更新だけでいいですと、かなりの数をしております。1日数件はしてると思っています。ただ、その内容は、それこそ比較見積もりを上げたりとか、そんなんも含んでしまいますけども、かなり数は行っておるところでございます。

それから、他にも各種イベントのお知らせであるとかも行っております。SNSのツイッターとかでも役所のその、例えばですけども、いろんな窓口の混み具合であるとか、そんなことも含めて常時発信をしておりますし、最近でいいですと、G20の関係で、旭区としてもそのG20を旭区も応援します、応援しますというようなことも発信させていただきました。

それから、意見をくみ取る場なんですけども、大阪市の仕組みとしまして、さまざまな市民、区民の方の意見をお伺いをしようということで、幾つかのツールがありまして、例えばですけども、電話とかインターネットとか、それから各訪問等もですし、ご意見箱も含めて設置しておりまして、市民の声も、かなりの数を頂いているところでございます。旭区の区役所の窓口にあつて、他の局にお渡しをする、例えば道路のことでしたら、建設局であるとか、教育のことでしたら教育委員会事務局を含めてということで、いろんなとこに回すことはありますけども、それこそ職員へのお叱りだとかも含めて、かなりの数を、これもかなりの数を頂いているところでございます。

○阪本 委員

ありがとうございます。

○花田 区長

追加説明をしてよろしいですか。

○木野 議長

はい、どうぞ。

○花田 区長

発信の点につきましては、そのSNSというのも、旭区は特別早くから取り入れてございまして、特に子育て世代とかに向けては、皆さんがそのSNSを使うというようなことありまして、LINEでありますとか、あと「しょうぶちゃん」のフェイスブックっていうような形で情報発信をしたりとかっていうことをやっております。

もちろんツイッターでは、どういったらいいんですかね、催しについて、ありますよっていうことをアピールするだけではなくて、こんな催しやってますよっていう現地からの話であったりとか、あとは混み状況が、窓口の混み状況が何分ぐらいですよ、みたいなことの発信まで、これは随時やっております。

あと、そのご意見を頂くっていうところについては、市民の声を聞くオール大阪の仕組みがあります。あと、そこに区役所としては、ご意見箱っていうのを置いております。それ以外になんですけども、ちょっと今検討しておりますのが、区長と区民の方が直接対応してご意見なり意見交換をしたりとかっていうのができる仕組みが考えられないかなっていうようなことで、浪速区とか、あと北区は団体さんとの勉強会みたいな場の設営みたいなんですけども、そういうちょっといろいろ他の区の状況もリサーチしながら、今検討してもらってるところです。ぜひちょっとそういうご意見も頂きながら、情報発信をしっかりやっていきたいと思っております。

あと、追加で申し上げますが、ここの14ページに書いております、この②番、数値が達成しておりませんよっていうことになってるんですけども、実は目標値が95%以上になってましてね、95%を目標にするっていうのは、実はそもそも無謀やなところだったんですが、去年の結果が95.5%だったので、あまり下げられないということで95%を目標値にしたところ、先に申し上げたような少しアンケート手法の変化とかもあって、そもそもこれって無謀な目標値だったんじゃないの？っていうような見解を、私個人としては、区長としては持っております。

○阪本 委員

ありがとうございました。これはちょっと踏み込んだ形で、孫が小学校あるいは某幼稚園に通園しておりまして、やはり今年の6月18日の地震、あるいは9月の台風24号ですかね、その辺り、非常にSNSを駆使して登校するのかわからないのか、その辺の判断ですね。例えば朝の7時までに発信すると。それはもうすでにやっておりますので、ある意味すごいなと思っております。

それから、私、紙のベースで言いましたら、いろんな24区、取り寄せていろいろタブロイド判を見せていただいております。隣の都島あるいは城東区ですね。あるいは中央区も検

討いただいて、非常に多岐にわたって、本当に頭が下がる思いです。ということは、行政の方、大変だなと子育てから本当に安心・安全の防災とかがあります。御礼申し上げます。

それと、次の質問につきましては、やはり防犯のことからいいましたら、花田区長は本年2月22日、より一層強固にするという意味で、安全・安心ということで、警察は旭警察ですね、それから旭消防署と連携協定を締結したと。より安心・安全を強化するということが分かるんです。ただ、災害は、例えば隣接する守口、城東、都島、その辺り、行政で縦割りの弊害というか、非常に避難をする。石中さん、熱心にどのビルに行くんや、この前も個人的に話したんですよ。わが太子町一丁目で、もしや洪水が、あるいは豪雨があったら、家に張り出すやつ、どこに張ろうかとか、そういう話を石中さんとした経験がありますけれども、横並びで考えましたら、都島と今は東ですかね、あるいは守口、うちはもう守口はすぐ、太子橋小学校なんか守口、緑町なんでね。その辺はどうなるんやろうと。ハザードマップ、本当にこれにも書いていただいていますように、いざとなったら、災害とか自然のほうは何も行政のことは考えてくれませんので、その辺りの連携というか、どうなのかなと、それは素朴な疑問ですけれどもね、この辺りは非常に行政同士での話はどうなってんのかなと、そういうことであります。

以上です。

○木野 議長

では、区長さんから、どうぞ。

○花田 区長

すみません、防災の時の隣接区でありますとか、あと隣の市がすぐ隣が守口市ですので、ということについては、対応するというか、検討しないといけないという課題認識を持っています。ただ、今ちょうどうちの区の防災計画っていうのを見直しをしてる中で、課題としては次の段階として、それはあるなと思いながら、具体的に例えば連携協定を結ぶとか、相手は市ですし、こちらは単なる行政区ですっていうような、ちょっと整理が事前に要るかなというふうに思っているところです。

これについては、境を接している幾つかの区がありますので、そういうところとも連携して考える必要があるかなと思っています。

あと、区をまたがる、24区の中での話っていうのは、区長会議の安環防、安全環境防災部会っていうのがありまして、そちらのほうで24区に関する統一的な危機管理対策というようなところは、区長会議のほうで議論をしております、そういう中では、もちろん連携とか、分担であるとかっていうことは議論されておるところでございます。

○阪本 委員

終わります。

○木野 議長

ありがとうございました。

他にご意見、石中委員。

○石中 委員

新森六丁目の石中です。2点あります。1つは提案と、1つはお願いというか、ぜひやってほしいなということ。

まず、先ほどLINEの話が出たんですが、あとは災害の話もそうですね。特に今回の梅雨の時は、九州南部でかなり豪雨が降って水があふれたりということがあったと思います。そういう情報っていうのは、もう私たちにとっては非常に大切に、いつ水があふれるか。特に淀川の流域っていうのは、かなり相当な雨が降らないとならないんですが、その前に運河のほう、城北運河のほう、特に内水氾濫なんかになったらどうするんだろうって、いつも不安なんです、その中で、いわゆるもうここまで水が上がってきたよという情報が早く来れば、じゃあ次はどうしようかっていうふうに皆さんの判断材料になるんですが、それがじゃあ実際、自分はそこまで出掛けて行って、それを見るっていうのは現実的じゃないので、じゃあどうするかっていうことなんです。

たぶん区役所の防災関係の方々、聞いたことがあると思うんですが、チャットポットっていうのは、先ほどのLINEの話なんです、情報共有ができるシステムがあって、これはAIでいろいろとやるみたいなんです、確か大阪市さんも導入が決定して、たぶん来年度導入するっていう話は聞いてます。ただ、今月、来月、再来月、今後台風がやってきて、どうなるかっていうのは非常に分からないところですし、実際にまだやられているところが少なく、今たぶん、神戸市の危機管理室のほうですでに導入を始めて、少しやり始めているっていう話は、この間の防災に関する会議みたいなのがあって、インテックス大阪であって、そこで話を聞いたんですが、ぜひ旭区なんかでも、うその情報があったらどうするのかとか、われわれはその情報が出た時は、雨降ってる中、そこをわざわざ出て行って、そんなもん撮ったら、当然それによって災害に遭う危険があるから、それはどうするんだとか、いろいろと問題があると思うんです。

ただ、情報を共有するのは、LINEっていうのは非常にやりやすいし、写真も載せれるし、すごく分かりやすいなと思うんですが、ぜひ今度の7月29日の部会までに、じゃあ具体的にちょっとした試行っていうか、顔の見える範囲内でやってみて、実際やってみないことには、何が良くて、何が悪かって分からないはずなんで、ぜひ旭区内で実際にやってみたらどうなのかな。例えば職員と、例えばこんな部会にいてる人たちの間で、例えばLINEのできる間で、例えば相互に情報共有しようとか、今後台風が来た時に、じゃあその情報の流し方によって、それはどう広がっていくのかなとか、そういうのを試験的に入れると思うので、大阪市は入れてから検討しますじゃなくて、その前に、先にLINEだったらす

ぐに、グループ作って、そんなお金もかからないからすぐできるんでね、ぜひそういうのはちょっと、少し考えなきゃいけない部分はあると思うんですが、検討していただいて、今度の部会までに、じゃあ具体的にこうしようとかいうのを、案を出していただけたら、結局地域防災力の充実というところにも寄与されることなんかなというふうに思っています。

2つ目なんですが、この参考資料、今日配っていただいたやつで、ここの私のところの意見について、対応方針が調整中っていうことだったんですが、早い話がちゃんと総務局の人にして、説明してもらえばいいんだろうと思ってまして、全体の会議の中で、皆さんのいろんな評価の中に、そういう実際に例えば防犯だったら警察の方だとか、防災だったら消防とか、そういう専門の人を呼んで、その中の人の意見をちゃんと聞きたいものだなという意見があったと思いますね。

ただ、この会議の性格上、実際に来るっていうのは難しいのかも分からないんですが、実際に傍聴という形で、一般の方へも公開してますし、そういう人たちが参加できないわけではないし、発言権に対しては、それは通常こういうのは議長が判断して、議長がいいと言えば判断できることだと思うので、ぜひそういうようにして、ちゃんと説明してほしいなというのがあります。特に私の場合は、たぶん9月で任期が終わるはずなんで、その後、もう来ないんで、その後もう分からないっていう話になっちゃうので、その後もう分からないっていう話になっちゃうので、ぜひそれまでには話を進めてほしいなというふうに思っています。

以上、2点です。

○木野 議長

ありがとうございました。

2つありますけど、LINEのほうからいきましょうか。

○花田 区長

そうしたら、情報の共有の話をお願いします。

LINEについては、実は大阪市の所属長、市長以下の所属長で、それぞれ幾つかのグループをつくって、危機管理のLINEワークスっていう仕組みを入れています。これは何かと云ったら、普通のLINEだったら、誰が見たかっていうのが分からないんですけども、そのメンバーの中で、誰が見たか見なかったかっていうのが分かるので、指示を出した、見たっていうところまでは非常に有効だと思います。

ただ、変にそれに回答をすると、よく「了解です」とか、LINE同士でそういうことをやると、とんでもなく90人ぐらいが入ってるLINEの中で、本来の指示が見えなくなったりしますので、そういうルールを今、所属長の中で作っているところです。例えばこの間の拳銃の話なんかは、そのLINEワークスで指示、情報交換っていうのが、されてきました。

だから、今大阪市のエリアでも、ちょっと使い方について検討中っていうのが1つと、も

う一つは、それを待たずに旭区でっていうお話がありましたけれども、1つは情報収集、発信のところが、まだ旭区の体制、これは防災の体制、この4月から強化をいたしましたけれども、まだ十分ではありません。なので、正しい情報をどういうタイミングで、誰が責任持って発信していくかっていうところを、防災計画の中でもきっちり決めていきながら、それをどなたに伝えていくんだっていうところを、どのツールでもって伝えていくんだっていうところは整理をしないといけないというふうに思っております、次回までにちょっとLINEでっていうのは、なかなか難しいかなとは思いますが、検討はさせていただきたいというふうに思っております。

あともう一つが、何でしたっけ。

○木野 議長

このご意見ですね、前回の意見の答えが調整中になってるんですね。

○花田 区長

すみません、実は消防の分なんですけれども、今日文書でぎりぎり間に合うなというところで、ここにはめ込むやつを調整してたんです、消防局から一定書いていただいて、そうしたら最終的にこの課題っていうか、検討しなければいけないところが7項目ぐらいあるよっていうところについて、じゃあ、それを出した責任はどっちやねんみたいなところが調整付かず、大変申し訳ないんですけれども、今調整中としか書いておりませんが、次回の部会までには、しっかりと調整すると同時に、例えば今後勉強会みたいな形で、消防局に来ていただいて機会を設けるとか、関わっていただく手法については検討したいというふうに思っております。

以上です。

○木野 議長

石中委員、大丈夫でしょうか。では、隅田委員。

○隅田 委員

隅田です。先ほどお話しされてたホームページを今ちょっと見てたんですけど、ホームページに31年度の運営方針が載ってるものと、これをちょっと今比較して見てたんですけど、だから、このさっき言ってはった、PDCAサイクルを丁寧にされてるということで、だから2年かかるわけですね、この30年度の今評価をしたのが反映されるのは来年度に、2年度の計画に……。

○花田 区長

来年度っていうか、令和元年度の計画の途中見直しです。

○隅田 委員

ああ、途中見直しはある。それはできるということで、この11月の時に。だから、そのおっしゃってた業績目標とか、取りあえず30年度と同じものがそのまま31年度として載ってたんですけど、それは暫定というか、そんな……。

○花田 区長

暫定というか、取りあえずこれで走り出しをしたんですけども、去年なんかも、今回1年前の数字でもって、思ってたよりも高い数字になったので、これはもう上方修正したとかっていうのも、ここにちょっと黄色い線がありますけれども、こういうところは見直しをしております。

なので、当年度の分を前年度に作りますけれども、当年度の途中で見直しをして、年度末でまた見直しをした分を評価してもらってってということで、おっしゃるように2年間かかっているということです。

○木野 議長

まだ少し時間がありますけど、何かございませんか。ご発言ない方でご意見ございませんか。マイクを回すほど時間はないんですが、どうぞ手を挙げていただいた方。

○川井 委員

今日の議題とは違うんですけども、よろしいですか。

○木野 議長

今日の議題と違うというのは、ちょっと具体的に言うと、全然違うんですか。

○川井 委員

全く違うんですが、区政会議の件なんですけどね。

○木野 議長

じゃあ、できるだけ短くしていただけますか。

○川井 委員

ああ、そうですか。私も2期目ですので、もう今日が全体会議、最後になりますのでね、何回も意見でも言ったり、文書でも出したりアンケートの時も文書を出したんですけど、この区政会議のことなんです。この区政会議が、結論的に言うたら、区政会議になってないということなんです。

もちろんわれわれ、議決する会議ではないことは分かっておるんですけども、意見が取り上げられないといいますか、区政に反映されていないというふうに思うんです。われわれいろんな意見を皆さんが出されますけども、全てが良い意見とは思いませんけども、中には立派な意見を出されてる方もおられますから、それはやっぱり区政に反映していただいて、初めてこの会議が生きるんだと思います。

区役所側の気持ちがないといいますか、そういう姿勢がないというのか、だんだん期の最後になったら、皆さん、委員皆さんが分かってこられますから、今日の会議でもやっと過半数超えるぐらいの委員しか出てこられていないように、每期、そういうようなことになっております。

前の期の委員で、ある委員がおっしゃってたんですけども、この会議は区政報告会やというて言われた方がおられたんですけども、まさしくずばり言われてるなというふうに思います。

私の言葉で言わせてもらいますと、区民に対するジェスチャーといいますか、皆さんの意見を聞いて区政に反映してるよっていうジェスチャーをされているというふうにしか見えません。ですから、今後いろんな工夫をされてるということは聞いておりますけども、一番大事なものは、反映するような気持ちを持たれるかどうか、そこにかかっているだろうと思います。

以上です。

○木野 議長

貴重なご意見ありがとうございました。では、区長さん、お願いします。

○花田 区長

すみません、今具体的にどの件について反映されてないっていうご感覚をお持ちなのかっていうところが、ちょっとまだ計り知れませんが、基本的には、この当日にやりとりをしていただいて、単なる質問に答える部分もあれば、ご意見として頂戴してる部分、あと、後からこういう形で文書で頂く部分も含めまして、私どもとしましては、非常にしっかりと受け止めた上で回答をし、そして反映をしてるというふうに思っておりましたので、ちょっと心外な気がいたしております。すみません。

すれ違い答弁なんかは絶対にやっております。しっかりと受け止めて返してるつもりでございます。

○木野 議長

他にございませんか。あと5分ぐらい議論してもいいかなと思ってるんですけども、委員が出てこられないのは委員の責任であって、区役所の責任じゃございません。委員の責任です。ね、これはね、出てこないのはね。本当に私も議長をさせてもらって、もうこんで終わり

かもしれませんが、私は意外と、意外と言ったらおかしいですね、本当に丁寧に意見を聴取していただいて、それから追加意見まで書いて、表現できるっていう、こういうのは素晴らしいなと思ってるんです。ですから、ただ全てが生きるとは思いませんので、その辺がもし生かされてないんだったら、生かされないのはどういうところなのか、なぜそうなってるのかというのを議論したほうがいいと思うんです。それこそ議論しないと生かされてないで終わったんじゃないけませんよね。ですから、あと5分ぐらい議論をしていただいても結構ですけど、その他で、ちょっとね、議題が変わっちゃいますので、せっかくの議題ですから、経営課題について、まだご意見ある方はございませんか。

弾さんはいかがですか。副議長は？

○弾 副議長

皆さんの大変貴重なご意見を頂いて、当然真剣に考えていかなければならないことばかりテーマになっております。その中で、ちょっと私が、こういうほうがいいんじゃないか、こんなもあつたらええんちゃうかなというのが1つありまして、タイトルが、将来ビジョン、旭区の将来ビジョンっていうのが大きなメインタイトルになっております。今、皆さんが議論していただくのは、目先のもうそういう議論を中心になさっておるように思います。夢みたいなことを言うなというご意見はあるかもしれないんですけども、私は旭区の住民としまして、5年先、10年先、あるいは20年先の旭区のビジョンを皆さんで、もう本当に夢を語れるような時間もあってもいいんじゃないかなというふうに思います。

それで、タイトルどおりの将来ビジョンという区政会議の一つの大きなポイントになるかなと思っております。ただ、今やってることは非常に大切なことなんでね、これはもう全く否定もしないんで、もう皆さんに敬意を払ってます。

以上でございます。

○木野 議長

ありがとうございました。

他にご意見はございませんか。どうぞ。マイクがありますから。

○鎌田 委員

すみません、鎌田です。意見というわけではありません。私の希望というかお願いなんですけれども、冒頭にありましたアンケートのことに、ちょっと関するんですけれども、確かに達成率が100%っていうことはあり得ないことだと思います。50、60、70、80、達成率が高くなっても、やっぱり少数意見っていうのが必ずあると思います。ですから、達成したからいいっていうものではなくて、その少数意見を少しでも拾ってあげてほしいなと思いますので、その辺のほうをよろしく願いいたします。

以上です。

○横田 委員

私のほうから短く。

○木野 議長

どうぞ。

○横田 委員

先ほど区長がアンケートの子育てが高く、それ以外が低いとおっしゃったんですけれども、それもアンケートに答えた年齢の方たちの偏りが、そういうふうになってるんじゃないかと思うんです。特に高い 82.9%、5 番にある、高いんですけども、この中の満足してる方はいいんですけども、不満の内容を拾い上げると、今後の課題になる、今後の課題解決のほうに向かうんじゃないかというふうに思いました。その不満の内容っていうのも拾い上げていращやるんでしょうか。

○花田 区長

そこまでは分かりません。おっしゃるように、そこを拾うっていうことは大事だなと思いますけど、このたくさんの方に出すっていうところは、できるだけ設問を簡潔にして、答えやすいようにというふうにちょっとやっておりましたので、細かく掘り下げていくところについては、またちょっと別の手法で考える必要があるかなっていうふうに思いました。鎌田委員の意見と合わせまして、対応してまいりたいというふうに思っております。

○木野 議長

ありがとうございました。

他はございませんか。じゃあ、坂井委員、どうぞ。

○坂井 委員

失礼いたします。公募委員の坂井でございます。14 ページのコミュニティー活性化の取り組みのところに関連してるんですけども、これも具体的にどうこうっていうことは、すぐに解決はしないと思うんですけども、私の希望といたしましては、下のとこの①のところで、平成 30 年度の業績目標が 120 件以上で 123 件なんで 102.5%という達成率ということなんですけれども、このよく分からないのが、なぜ 120 件という目標を置かれたのかもちょっと分からないんですけど、それは 3 件超えたから OK とかいう、何か計り方が、ううん？っていう、ちょっと申し訳ないんですが、例えば 100 件であっても、その内容が濃くて、地域のためになってる行事であれば、それはそれでよしだし、逆に言えば、名前だけ付けてちょっと何か形だけやって、あんまり地域のためになってない行事であれば 150 件あっても 200

件あっても、あんまり意味がないことであって、あんまり達成率が達成したのかどうかが計れないような、ちょっと目標の置き方かなっていうふうになんて感じたんですけども、デジタル化するには、なかなか難しいことなんで、苦肉の策でちょっとこうされたのかなとは感じるんですけども、結局何が言いたいのかといいますと、今なかなか旭区も高齢化してきて、地域のために貢献してくださる方が減ってきてるっていうのが現状で、若い担い手がなかなかなくて、先ほどから言われてる防災であっても、防災リーダーが、防災リーダー自体が高齢化してきて、みんなを助けられるかっていったら、逆に助けてもらわないといけない防災リーダーがたくさん、うちの校下もそうなんですけど、いらっしやる状況でね、じゃあ若い人がもっとやってくれたらいいじゃないかと言うんですけど、なかなかその若い人が地域に参画できてないのが現状なんです。

その中で、この一冊、いろいろいいこといっぱい役所がやってくださってて、福祉のことであつたり子育てのことであつたり、防災であつたり防犯であつたり、でも、そのいくらいいことを考えてくださっても、それを一緒にやっていく地域が倒れてしまったら、ただの施策だけで終わって、全然中身のないものになってしまうんで、あくまでもやっぱり地域が元気でないと、それをやっていけないんじゃないかなっていうのは、すごく感じるんです。高齢化なのはもうしょうがないとしても、その中でこの1番の地活協なんかは、すごく莫大な予算をここに投入してくださってて、たぶん10校下が十分過ぎるほどのお金を頂いてると思うんです。

じゃあその中で、そのお金を有意義に使っていくための人材とかが、なかなか追いついてないと思うんです。その心あるやってくくださる方が、今後も続けていってくださる。地域が無理なく貢献していただく力、財力とかそういうのを維持していくためには、やっぱりもうしんどいからボランティアやめようとか、これを受けたらもうこんだけなんかやらなあかんから、役所からこんだけ課せられるし、やめようみたいなふうな仕組みづくりでは、なかなか地域貢献していただけないと思うんです。

確かに地活協の場合は、お金をたくさん頂いてるんで、もちろんきちっとした使い方をしないといけないのも分かりますし、きちっと報告を上げないのも分かるんですけども、非常に作業、事務作業が莫大でありまして、それを例えば役所から出てる人件費では、全然賄えないほどの時間がかかる状態になっております。あとは地域で自分たちで何か生み出して、その事務費の給料を賄うしかしょうがないような状況なんですけれども、そもそもそれをもうちょっと簡単っていうか、みんなが地域の方がやりやすいような仕組みづくり、個々にはいろいろ市民協働の方もすごく応援してくださってるのは分かるんです。お忙しい中、土曜日でも日曜日でもいろんな地域に顔を出していただいて、行事を手伝っていただいたりはしてるんですけども、そこは非常にありがたいんですけども、それだけではなかなか地域の住民の負担が軽くなるんで、もっと言うなら、根本的な仕組み自体を、もうちょっと市役所側の目線ではなくて、住民側、地域の区民の側の目線に立ったちょっと仕組みづくりをしていただけないかなと、これは、すみません、区役所のせいじゃないと、私もいつも

いつもちょっと申し訳ないんですけど、もうちょっと簡単にならないんですかというお話をしたら、大阪市の様式だから、どうしてもできないんだっていうお答えが返ってくるんで、区役所でどうこうできる問題ではないんですけども、10校下どこの協議会もしんどい思いをされてるのは一緒ですし、もっと言うなら24区、どこも結構皆さんしんどいって言われてるとこ多いんで、区長さんしか、市に行く方はいらっしゃらないんですけども、市の中でもうちょっと区民の目線に立って地域のそういうふうな活性化に皆さんが参画してもらえるような仕組みづくりを考えていただけたらなっていうことをちょっと、私もたぶんもうこれで終わりなので、なるべくお願いしたいかなと思って、よろしく願いいたします。

○木野 議長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

○前田 市民協働課長

市民協働課長の前田です。坂井委員、貴重なご意見、ありがとうございます。

まず、大きくは2つに分かれてたかと。1つは、業績目標におきましての件数の関係なんですが、これはごめんなさい、非常に短絡的に計算しております。旭区内10校下あって、毎月1件以上事業をしておればというところで120という数字を上げたところです。本来ならば、おっしゃるとおりに、満足度を計れる指標があればいいのですが、これは参加者アンケートをとりますと、個々別の事業でとったところは、やはり参加される方は非常に満足度が高くなってしまいます。そうじゃなしに、やはり全く知らない方の目線も含めてアンケートをとるわけなんで、そうしていくと、やはり数値的に何か客観的に示せるものがあればということで、単純に件数で置いただけのものでございます。

従って、もっとこういったアンケートのとり方もいいんじゃないかというご提案がありましたら、また後ほどご意見等を頂きましたら、前向きに検討して変えていくような形もとれるかなというふうに思っております。

もう一点、地域の仕組みづくりの関係なんですが、確かにおっしゃるとおりです。地域、どこへ行きましても後継者づくり、これは非常に危機感を感じておられますし、私自身も感じております。

そういった中で、地域アンケートを地活協で活動される役員の関係のアンケートをとったところ、やはり後継者づくりについてというところで、昨年10校下回って、ワークショップをしたところです。そのワークショップは、まず皆さんがなぜ地域活動を始めたのか、その原点に立ち戻って考えていきたいと思いますというふうにしたものです。ですから、今年度はさらにもうステップアップして、もう1ランク上げて考えていけたらなというふうに思っているところですが、一方で先ほどのお話にもありましたように、大阪市のほうから、地活協の会計に関しまして非常に厳しくなっております。実際には財産台帳を作れ、備品台帳を

作れ、どんどん書類を作るのがややこしくなりました、どんどん会計を担う方が苦しくなってきた、そして会計を担う方が苦しくなってくると、活動にも影響するというところがあります。

その辺は、市民目線でいく中で、一方で厳しくなっていくところではありますが、仕組みづくりのお手伝いに関しまして、何かできることがありましたら、また10校下、希望を聞いてそれに沿えるように取り組んでいきたいというふうに思っています。その節は、またよろしくお願ひいたします。

○木野 議長

では、区長さん、お願いします。

○花田 区長

24区共通の課題ということで、今お話がありまして、まさしくそのとおりで、地域の方でいろいろなお役をやっていらっしゃる方に、いろんなものがかぶさってきているっていうことについては、この間、ずっと区長会議で問題になってございまして、いかにその負担感を軽減して、より広く浅くっていうんですか、担っていただけるようなことはできないかという視点と、もう一つは、会計等の負担感みたいなところの仕組みをもう少し改善できないかというところについては、先ほどちょっと申し上げました安環防部会というところが、市民局の所管になっておりまして、24区共通のそういうお話については、一定、継続的に話をしてるところですけど、今回このタイミングで旭区としてお話もいただきましたので、またその部会のほうで早いタイミングでご議論いただけないかということは、伝えていきたいというふうに思っております。よろしくお願ひいたします。

○木野 議長

他にございまして、問題点は共有していただいているということで、よろしいですね。

ちょっと時間がだいぶ過ぎてきましたので、何か最後にこれはというのがありましたら、いいですか。

そうしましたら、資料3のほうですね。区政会議評価シート of 書き方、こちらについて何かご質問、分からないとかいうのがありましたらお願いします。大丈夫ですかね。以前にもやりましたかね。

○花田 区長

これなんですけれども、何をご判断いただくかっていうことは、戦略っていう真ん中のところに、経営課題はそれぞれ1、2、3、4と4つございまして、目指す将来像っていうのがあるんで、それからビジョンの表現を使っていますけれども、その将来像の目指すところに、この戦略では、経営課題1であれば、1-1、子育て支援の充実っていう戦略と、戦略1-

2の子どもへの教育支援って、この2つの戦略が有効かどうかっていうことをご判断いただくということになってございまして、個々の取り組みの話ってというのは、先ほど自己評価をもう一度皆さま方にご評価をいただくという手順を踏みましたけれども、これはあくまでも戦略が目指す姿に有効かどうかという判断になりますので、基本的には、やや思う以上になろうかなという気はいたします。でないと、全く戦略違うやんっていうことであれば、できればここでご議論をいただきたいなと思うところです。

大きな話ですね、戦略って。例えば戦略の経営課題4の所に、戦略4-1として、地域防災力の強化と、4-2として地域防犯力の強化っていう大きな話がありまして、ここの例えば地域防災力の強化の指標としては、3年のうちに1回防災訓練に参加した人が非常に低いレベルであって、そこの評価っていうのは上がってないけれども、地域防災力の評価をするっていうことに対して、安全・安心な旭区のまちづくりっていうところが緩むかといったら、そうではないというふうには思っておりますが、ぜひちょっとここの評価については、そういう視点の評価でございますということと、一番下の区の目標っていうのは、この4つの経営課題の対応によって、トータルとして、安心して住み続けられるあたたかいまち旭区の実現を目指すというふうに、この4つの取り組みが効果的かどうかということなので、もし効果的でないというふうに思われる場合は、より効果的な取り組みというか、その戦略でありますとか、経営課題での、寄り付き方法っていうんですか、そういうご提案を頂きたいというふうに思っております。

なので、非常に漠とした聞き方なんですけれども、もしこれ、あまり思わないとか思わないであれば、より良い戦略でありますとか、より良い経営課題への立ち位置みたいなどころのご提案をぜひ頂きたいというふうに思っているところです。よろしく願いいたします。

○木野 議長

どうぞ。

○阪本 委員

最後のね、提出方法が郵送か、または持参って書いてあるんですが、これ見たらたぶんエクセルかなんかで作ってるんですかね。これメールか何かで送ってもらえば別に、それで答えられる。そうすると例えば具体的な理由とか書いてあるのを、わざわざたぶんこれ文字でやると、集計するのはきっと字を解読して、またそれを書くわけですからね、エクセルだったらそれをすぐコピーができるから、集計をされる方にとっても楽だと思うので、もしそれが可能な人には、そうやって送ってもらえれば、私たちなんかは、もうそのままメールで返信したいなと思いますので、そうしていただければいいと思います。

○花田 区長

ありがとうございます。ぜひそうさせていただきます。

○木野 議長

他は、どうぞ。

○井上 委員

ちょっと議論と違うかもしれませんが、会議の持ち方のことですけども……。

○木野 議長

井上委員ですね。

○井上 委員

2年前、ちょうど私2年目なんですよね。2年前の記憶では、初めてこの会議に出た時に、何の話をしてるやら、何を言うたらええか分からん、資料は膨大で、おまえら黙って聞いとけよと言われてるような、そんな感じを受けたんですよ。今度は新しい人が来られるでしょう。その人たちに同じ思いをさせないように、十分配慮ある運営の仕方をしていただきたい。これはもう議長さんの問題じゃなくて、提案する側の問題だと思います。初めて来られる方に分かりやすく説明して、理解してもらえるような、そういう資料の出し方なり、説明の仕方なり、これまでの経過も含めて、これまでの経過はこうで、今後の課題はこんなことがあった。皆さんはこんなことをやってもらうんですということを、分かりやすく話をしていたかないと、そんなことから、何や訳の分からん会議やなっていうところからスタートするとね、どなたかがおっしゃったように、何か押し付けでという雰囲気を持ってしまうと思うんですね、最初から。その辺は次の会議は新しい人が来るので、その辺は十分配慮いただきたい。これはお願いです。

○木野 議長

お願いということですけど。

私もぱっと思ったんですけどね、これは正式な会議ですよ。初めての方にはプレの、プレ会議みたいなことで学習会をして、区政会議って一体どんなことをするのか、何がどういう目的なのかとかいうのは、事前講義じゃないですけど、そういうのをしてみてもいいんじゃないですか。この会議でそういうことをすると、半分ぐらい使っちゃって、せっかくの会議がなかなか意見交換できない可能性もあるので、また考えていただけたら。

○花田 区長

ちょっと前回、過去に勉強会とかのご提案も頂きまして、いろいろと取り組んできた経過がありますので、先ほどのご意見、ご参考にさせていただいて、そもそもこの会議がどうい

うことであるかとかっていうところを、まず第一義的にやらせていただくというふうに取り組んでまいりたいと思います。どうもありがとうございます。

○木野 議長

ありがとうございました。

では、大分時間も過ぎてきましたので、この本件につきましては、ここで終わりとさせていただきます。これで、本日の議題は終了いたしました。福田議員もお越しいただいていきますので、ぜひ一言お願いいたします。

○福田 議員

皆さん、今日は長時間、いろいろご意見を聞かせていただきまして、ありがとうございます。冒頭に今日はこの区民アンケートのほうでいろんなご意見が出されておりました、私もそれを聞いておりますと、やっぱりこのアンケートの結果をどう評価するのかってというのは、非常に難しいなというふうに思いました。今回のこの区民アンケートにつきましても1,600件ぐらい出していると。これは無作為に出したと。そのうち約半数ぐらいが返ってきました。その半数返ってきた回答いただいた人が、どれぐらい区政に対して興味を持っておられて、またご理解があつてっていうのが分からない中で、その結果だけをもって、これがどうかってこのだけを判断するのっていうのは、ちょっとしんどいのかなというふうに、これはやっぱり思います。

ただ、アンケートっていうのも、それぞれ皆さん温度差があると思うんですけど、できればもう無難に書いとこかっていう方もいれば、ちゃんと読み込んでしっかり書いてくれる方もいらっしゃるかと思いますので、その点も踏まえて、先ほどご意見があつたように、アンケートのところはどう書くかによっても、答えは変わってくるし、この質問の仕方によっても、答えが変わってくると思いますし、そういうところも、いろんな方のご意見も聞きながら、それに加えてここにあるように、業績目標の達成率と区民アンケートの結果というのがやっぱり比例していかないと、この業績目標を立ててること自体もおかしいのと違うかということになってくると思いますので、アンケートだけを捉えてどうこうっていうのも、あかんと思いますし、それを一つの要素として、じゃあ業績目標がどれだけこの区政委員の方もそうですし、皆さんと誤差がないのかってっていうのも、しっかりそこは感覚として捉えていかなあかんのかなというふうに思いました。

それと、この区をまたがった連携とか、隣の守口市との連携のお話もありました。私もそのとおりのやなと思ってまして、仮に地震とか台風だとか災害があつた時に、基本的にはやっぱり行政、旭区、都島区、それに行政区単位でいろんな防災計画を立てるとというのが、これは基本なんですけども、でも、例えば太子橋の三丁目なんかでも、太子橋小学校に行くよりも、もうすぐ近くの守口市のほうに行ったほうが断然近いんですね。それをわざわざしゃくし定規に、いや、太子橋小学校にいざという時に逃げなあかんっていうと、必ずしもそうじ

やないと思いますんで、そこが一つ一つのやっぱり地域の事情があると思いますから、その地域の事情に応じて、皆さんにやっぱり共通認識を持っていただくような努力はやっぱりしていかなあかんと。

この間、先日の鹿児島県の豪雨の時に、気象庁は言うたのは、自分の命は自分で守ってくださいとはっきり言うていましたよね。私、結構言うなと思ったんですけど、やっぱりこれ基本は自助・共助の中で、じゃあ公助という部分でどこまで役所が皆さんに、しっかりその辺のセーフティーネットを張れるのかってところで、その地域に応じた計画っていうのを立てる上で、先ほどご意見があった、区をまたがるのか自治体をまたがるっていうのも、これからすぐにでもやっていかないと、もう区が8月、9月、また台風シーズンでもありますし、また豪雨とか猛暑日も続きそうなので、その辺をしっかりとこういったご意見でまた皆さん取り組んでいていただければというふうに思っております。

すみません、長いんで、1点だけ、旭区にとっては、一番西側で城北公園通ができて、役所の方も城北公園通が城北公園へのどういう導入、皆さん、道を造っていくかっていうのも考えておられると思うんですけど、これすみません、個人的なことです。私はやっぱり城北公園通からずっと柳通り、区役所の前も通ってますので、これは私、柳通りをやっぱりなんか、にぎわいづくりしたいなっていうのをずっと思ってます。ただ、見てますと、これは民有地のこともあって、なかなか難しいところもあるんですけど、更地になって、今、空き地の状態のままのところが結構増えてきてるんです、この柳通りはね。これは、やっぱりある意味、メインストリートでもあると思いますので、またいろんな皆さんのご意見も聞かせていただいたらと。これは旭区のやっぱりにぎわいづくりという点では、この柳通りは非常に重要な通りでありますから、直線道路でこんな資源はないんでね、真っすぐの道路できれいな道路ですから、そういったところを踏まえて、ここからまた旭区のまちづくりを考えるっていうのも、一つの手法じゃないかなと思っておりますので、いろんなご意見を聞かせていただければと思います。私、個人的に言っていただけでも結構ですので、よろしく願いいたします。

すみません、長くなりましたが、今日はありがとうございました。

○木野 議長

ありがとうございました。とても貴重なご意見を頂きました。

では、最後に、花田区長から何かございますか。

○花田 区長

本日は、本当に大変貴重なご意見をいろいろと頂きまして、ありがとうございました。今月中に月末になりますけれども、部会のほうもそれぞれ開かせていただきます。これについては、次年度以降、また今年度後半の運営についてのご意見っていうのも賜りたいというふうに思っておりますので、今日頂きました宿題についても、お返しできる部分はお返ししてま

いりたいというふうに思っております。

先ほど今年度から防災のほうを強化いたしましたというお話をいたしました。これは人数をまず若干増やしました。担当課長を置きまして、今までは総務課長が兼務をしておったんですけれども、担当課長を置きまして、市民協働課と一緒にのところを部隊として動けるようにということで、そして時には市民協働課の中に位置付けた課長ということになってございます。

また、現状の職員も今まで安全は安全、防災は防災という形になってございましたが、これから先は、順次融合的に必要なに応じて隊が組めるような、そんなふうなこともちょっと今はできておりませんが、目指していこうというふうに思っています。

防災計画なんですが、ちょうど今見直しをしておりますして、来月早々にはパブリックコメントというような形で区民の皆さんにご意見を賜るというような機会も持っていきたいというふうに思っておりますして、今日まさしくその中では十分触れられてなかったような課題っていうのもございますので、今日頂いた意見は、そのパブリックコメントと同じような扱いということで、しっかり受け止めて反映していけたらというふうに思っております。これからも旭区、安全で安心で、そして住み良いまちづくりで、活性化というようなところのキーワード、昔なら皆さま方それぞれ団体の皆さま、そして区民の皆さまのご意見も頂いて、しっかりと区役所として信頼に足る区政運営をできたらなというふうに思っております。

今日は責任を持っております課長と課長代理が、今日は全員参加してございますので、またお顔を覚えていただきまして、言いやすいところにぜひ言っていただきながら、より良い旭区づくりということに努めてまいりたいと思います。

今日は本当に長時間、ありがとうございました。

○木野 議長

ありがとうございました。

それでは、これで終了いたしますけれども、いつものように本日の議題に対して追加で意見を述べたいという方がいらっしゃいましたら、本日配布されております追加意見提案メモを7月19日金曜日までにファクス等で提出していただきますと、本日の発言として取り扱う旨、事務局から聞いております。ぜひご活用ください。

その他、事務局からありますか。

○松原 企画調整担当課長

失礼します。事務局から連絡でございます。

先ほども申し上げましたが、アンケート自己評価シートにつきましては、7月末ということなんですけれども、同じく今日お配りをしました中に、区政会議委員学習会に向けてのアンケートというA4用紙でございます。昨年度、学習会として10度開催させていただきました

た。その中で、こちらが行ってる事業につきまして視察いただきまして意見を言っていたかというようなことをさせていただきましたが、これにつきましては、在り方がどうであったかとか、大分先ほどもありましたけども、新任の方の区政会議とはというような勉強会も含めてという声がありましたが、それ以外にも、他にもこういう学習会等々あればいいのではないかというようなこと、意見を頂きたいと思いますので、これにつきましても、この7月末日ということを出していただきたいと思いますので、郵送の場合は、また先ほどの封筒、それから部会に持ってきていただくか、それからまたメールでということであれば、メールでもお送りしますので、ご提出いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○木野 議長

それでは、これで令和元年度の第1回旭区区政会議（全体会議）を終了いたします。皆さん、お疲れさまでございました。